

フェリス女学院

2009 年度事業計画書（概要）

.....

学院創立 140 周年を迎える 2010 年は、学院の教育理念を再確認し、将来への展望を開く節目の年になります。これからもキリスト教信仰に基づく女子のための教育を行うという学院の使命を果たすために、長期的展望のもとに教育理念をいっそう具体化し確かなものとする諸方策を検討し、推進します。2009 年度は、大学、中高でそれぞれ検討を進めてきた将来構想を学院全体の視点でまとめ、それを支える仕組を構築することが大きな課題となります。

2009 年度における事業計画の柱は以下のとおりとなります。

- 教学将来構想を軸とするグランドデザインの検討
 創立 150 周年となる 2020 年を目標にした学院の将来構想をまとめる
 - 人事制度および職場環境改善の推進
 教育事業を支える教職員が働きやすいように制度や職場環境を改善する
 - 学院支援体制の強化
 維持協力会の活動強化を中心に、学院の教育理念を理解し支援するネットワーク作りを推進する
-

1 制度・政策にかかわる事項 経営・運営に関する事項

① 経営改善計画に則った継続的な取り組み

2006年度に策定した経営改善計画目標（※）達成に向けた諸政策を継続して実施する。

※経営改善計画目標（抜粋）

- (1) 中長期目標 帰属収支の均衡を確保し、消費収支の均衡を目指す。
- (2) 中期目標 恒常的な安定を目指し、グランドデザインを策定、実施する。

② 学院グランドデザインの検討

③ 人事制度及び職場環境改善の推進

④ 各部門に関する事項

【大学部門に関すること】

1) 大学院音楽研究科演奏専攻の設置

音楽研究科に演奏専攻（修士課程：入学定員 15 名、収容定員 30 名）を 2009 年度に設置する。このことに伴い、声楽専攻及び器楽専攻は学生募集を停止し、在学生の修了を待って廃止する。

2) 大学院音楽研究科 修士課程入学定員及び学生収容定員の変更

入学定員 音楽芸術専攻 旧 2 名 ⇒ 新 5 名

3) 大学院音楽研究科 学納金（授業料等）改定（変更のみ記載）

授業料（年額）	旧 800,000 円	⇒ 新	A基本授業料	（音楽芸術専攻）	505,000 円
				（演奏専攻）	805,000 円
			B選択PA科目実技料	（実技レッスン A・B）	
				1 実技レッスンにつき	150,000 円
			C選択PA科目実技料	（特別実技レッスン A・B）	
				1 実技レッスンにつき	50,000 円

※演奏専攻の基本授業料には選択PA科目 2 実技レッスン分（300,000 円）を含む。

※B・Cは履修者のみ

4) 組織体制再編実施

【中学校・高等学校部門に関すること】

1) 校舎建替第二期工事着手にむけての検討

2) 中高校納金（授業料）の増額改定（月額 1,000 円、年額 12,000 円増。全学年適用）

【本部事務局に関すること】

1) 山手地区マスタープランの策定

2) 教職員の職場環境改善

3) 職員に関わる諸制度の充実

4) コンプライアンスに対応した組織体制の検討、整備

2 財務に関する事項

- ① 経費削減目標と総額経費枠の設定
- ② 2009年度第2号基本金組入れ計画
 - 【大学部門】 大学キャンパス施設設備拡充整備資金計画 1億5,000万円組入れ
 - 【中学校・高等学校部門】 校舎建替第二期工事建築資金計画 1億円組入れ
- ③ 資金運用による金融資産の蓄積推進と安全性確保のための体制整備
- ④ 減価償却引当特定資産 7,000万円+大学施設設備費増額分の1/2相当を繰入れ

3 施設設備に関する事項

- ① 建物診断に則った当該年度主な修繕案件
 - 緑園 1号館他 外部補修、給湯設備更新、排水設備改修等
- ② 中高 パイプオルガンの設置事業（継続）
- ③ 学院情報基盤及び大学教育研究システムのリプレースの実施
- ④ その他
 - 【大学部門】
 - 緑園 3・4号館 売店・学食見直し
 - 7号館他 バリアフリー関連工事
 - 7号館2F入口及びキダーホール入口自動ドア設置
 - 西側道路整備工事（凹凸解消）
 - 山手 6号館第2別館 屋根吹き替え等
 - 【中学校・高等学校部門】
 - 教室窓の二重ガラス化及びフレームの補強等
 - 第1・2グラウンドの整備
 - コンピュータ教室のPC更新
 - LL教室へのCALLシステム導入
 - 学院情報基盤システムのリプレースの実施に伴う中高教育研究用システムの導入

4 教育研究に関する事項

【大学部門】

キリスト教を教育の基本方針とし、教育及び学問研究の機関として、女子に高度の教育を授け、真理と平和を愛し、人類の福祉に寄与する自立した女性を社会に送り出したいと願っている。文学部は「多様化する社会で他者と共生し、主体的に表現できる豊かな素養ある人材の養成」、音楽学部は「キリスト教音楽を基盤として、専門的な知識・能力・技術を持ち、かつ音楽界を多様に支える素養ある人材の育成」、国際交流学部は「グローバル化の時代にふさわしい、専門分野の枠を越えた総合的知識ある人材の育成」を教育研究目的としている。また、教育面、学生生活面ではキリスト教信仰に基づく、「For Others」の精神を中心に、ひとりひとりの学生を大切にす少人数教育を行っている。

1 将来計画委員会 2 自己点検・評価報告書の作成 3 FDへの取組み 4 キリスト教音楽研究所主催のキリスト教音楽演奏会の開催 5 障がい学生の授業保障への全学的取組み 6 情報システム更新関係 7 大学公式ホームページの運用体制の整備 8 教育用機器の計画的更新 9 在学生の社会人基礎力向上支援並びに卒業生キャリア形成支援

【中学校・高等学校部門】

本校の長期的課題と目標は、キリスト教信仰に基づく中等教育レベルにおける女子教育のさらなる充実にある。「For Others」のモットーのもと、「キリスト教信仰」・「学問の尊重」・「まことの自由」を教育方針とし、中高6年間を通して、深い知識・教養と高い人格とを兼ね備えた人材の育成に努めている。中等教育における「学問の自由」とは、広い視野に立脚し、将来の高等教育等につながる基礎的な学習に主体的に取り組むことである。「まことの自由」とは、他者との関係の中で、自己の利益よりも他者の利益を優先させることのできることを目指すものである。中高の6年間を通して、「受け取るもの」から「与えるもの」へ心身ともに成長することこそが、本校の教育の目標である。2009年度も、そのためにも日常の教育活動の基盤である日々の礼拝、修養会をはじめとする各種キリスト教教育のなお一層の充実と、多様な学習に対応できる柔軟な教育課程の運用に努める。

なお、2007年度より始まった小学校6年生を対象とする学校見学会を2008年度は7月に実施した。その評価を踏まえつつ、2009年度は、学校説明会（11月）を含め新たなる募集対策を具体化する。また、本校のキリスト教教育を始めとする教育内容を広く周知し、理解を得るために、1号館建て替え時に中断したままとなっている学校案内を、今年度から再び作成する。

5 学院支援体制強化に関する事項

- ① 学院の教育理念を理解し支援するネットワーク作りの推進
- ② 募金活動の取組み（維持協力会 教育充実資金）

6 その他の事項

- ① 周年記念事業の具体化
- ② 資料室及び短期大学の資料整備

以上